

# 平成 19 年度生物産業インターンシップ報告書

短期大学部・生物生産技術学科

## 実習先

神奈川県横浜市戸塚区下倉田町 273 むのかわ犬猫病院

## 実習期間

平成 19 年 3 月 23 日～4 月 4 日

## 実習内容

3 月 23 日：犬の骨折手術見学。

猫の膀胱に溜まった石を取り出す手術の見学。

犬舎の清掃。ご飯の食べ残しなどをチェック。

3 月 24 日：猫舎の清掃。

皿洗いや洗濯。

レントゲン撮影の手伝い。頭の撮影では頭と台と水平にする。

3 月 26 日：犬舎の清掃。

注射器作り。滅菌されているので素早くつける。

犬のシャンプー手伝い。少し手がかゆくなった。

3 月 27 日：犬の保定方法を教わる。大型犬は座らせて上から乗る。

犬のシャンプー見学。

3 月 28 日：犬の保定。

手術後の片付け。

3 月 30 日：レントゲン撮影の手伝い。

手術後の片付け。

犬の保定。注射や歯磨きをしていた。

3 月 31 日：犬の保定。バタバタして大変だった。

猫の子宮摘出手術の見学。子供が 4 匹できていた。

4 月 2 日：犬のお産見学。この日は 1 日で 3 回もお産があった。

犬のシャンプー手伝い。

犬の保定。年をとった犬だったので力加減が難しかった。

4 月 3 日：犬の保定。採血が終わった後は、針が刺さったところにしっかりと手を当てなければ血が止まらなかつたり皮膚の下に血がたまって紫色になつたりしてしまう。猫の去勢手術見学。

4 月 4 日：犬の保定。子犬は無理に押さえつけたりすると病院嫌いになつたりするので、もし嫌がった場合は 1 度落ち着けるために手をゆるめてあげるとよい。

## 実習効果

動物病院に行くのは初めてだったし、犬の保定もしたことがなかったけれど、何でも親切に教えてもらうことができた。実習を通して、動物を扱う現場では素早い行動力と、注意力が必要だと感じた。他にも動物看護師の方々に、専門学校の様子を聞くことができたので、自分の将来を考える上で非常に参考になった。

## 感想

この実習に行く前、私は動物看護師という仕事について実際にどんな仕事をしているのかは見

たことがなかった。予想では病院にいる動物の世話や準備、受付などであるだろうと思っていたが、全然違った。もちろん私が予想していたことはやっていたけれど、それ以上のことも多くやっていたのだ。採血や血液検査、レントゲン、レーザー治療、そして薬も作っていたのだ。さまざまな仕事をてきぱきとこなす看護師の姿にびっくりしたとともに、自分がこれから本気で動物看護師を目指していくかどうかということにおいて大きな影響を与えたと思う。実習中に何度か急患が運ばれてきた時もあったが、その時も誰一人仕事がかぶることなく一人一人が違う作業を効率的に行っていた。打ち合わせをしたわけでもないのに各自が自分の役割を見つけ出し、迅速な対応を取ることによって多くの命が救われていると感じた。

10日間の実習で私は本当にたくさんのものでした。最初はせっかく動物病院に行くのだから普通では見ることのできないような手術や手当の様子を見てみたいと思っていたが実習をしていくにつれて考えは大きく変わり、もっと基本的な犬の扱い方をしっかり学びたいと思うようになった。自分がいかに動物のことを知らないか思い知ったからだ。

小さいころから動物が好きであったけれど、家で犬や猫を飼ったことがない私は動物の扱い方をほとんど知らず、苦勞の連続だった。病院の方々に抱き方から保定の方法までしっかり教えてもらったけれど、病院を訪れる犬や猫はなかなかじっとしてくれないことも多い。年を取った犬やまだ小さい犬は力加減がわからず自分のせいで骨が折れたり関節がはずれたりしたらどうしようなどの恐怖を感じ、手に汗をかき、手放したいとも思った。

自分に自信がなければ不安を抱えた動物を扱えるはずがない。今までは動物が好きだから動物看護師になりたいと自然に思っていたが、これから動物の勉強や医療の知識、正しい動物の扱い方をしっかりと学んでいく覚悟が必要だと思った。

動物看護師という仕事は命を扱う仕事であるだけに失敗は許されないし、動物の行動にも常に気を配らなければならない。今回はまだ自分が何もできないことを思い知らされて悔しかったけれど、動物病院の現場を見たことによって動物看護師になりたいと改めて思った。勉強して動物が好きなのに何も知らない自分を早く変えたい。何も知らずに動物病院に行って実習し、悔しい思いをしたからこそこれから頑張っていきたいという気持ちが強くなったのかもしれない。今回の少し苦しいけれど学ぶべきことが多くあった経験を絶対に無駄にせず、勉強していこうと思う。



写真 動物病院にて